

前田雅子（2015年度学会賞（著書）受賞）

この度は、拙著 *Derivational Feature-based Relativized Minimality* に対し、2015年度日本英語学会賞（著書）を賜り、大変光栄に存じます。選出して下さった選考委員の先生方に深く御礼申し上げます。また、本書は2013年に九州大学に提出した博士論文をもとにしたものです。学部時代からご指導して下さった西岡宣明先生に心より感謝申し上げます。また、学会発表の場など、本書のアイデア構築の様々な段階で貴重なコメントをいただいた先生方、先輩方にも心より御礼申し上げます。

本書は、カートグラフィーの仮説の基で、階層構造をCP領域とvP領域に仮定し、その階層構造に数種類の移動操作が生じた際の介在効果を素性基盤の派生相対的最小性により統語分析したものです。また、階層構造の形成方法に関し、素性の主要部移動とラベリングの仮定を組み合わせた提案を試みました。

統語論研究は、目に見える言語事実の奥に隠れている自然界の法則に則った言語法則を見つけることを目標としています。私の娘も、10ヶ月の頃、お湯を手で掴もうとして、なぜ掴めないのか不思議そうにしていました。そこに当たり前にあるものを不思議に思い、その奥に潜む法則を少しでも意識するというわくわくとした瞬間を見せてもらった気がしました。本書のアイデア構築中も、私なりに、目に見える言語事実の奥のものに触れたかもしれないとわくわくした瞬間がありました。もちろん、それは私一人では感じることはできなかった瞬間であり、日々の授業や学会の場で言語学の楽しさを共有して下さった先生方や研究室の皆様のおかげです。この度の受賞を励みに、地道に研究に励みたいと思います。このたびは、身に余る賞をいただき誠にありがとうございました。